

MUSEUM PRESS

鳥取県立博物館ニュース

Newsletter of the Tottori Prefectural Museum

SEPTEMBER 2008 No. 6
平成20年9月発行

6



八幡之縁起(個人蔵・当館寄託)

企画展 10月4日(土)～11月9日(日)

「はじまりの物語 — ^{えんぎ}縁起絵巻に描かれた古の^{いにしえ}とっとり —」 2

企画展 11月22日(土)～12月23日(火・祝)

「シュルレアリスムとその周辺」 3

共同企画 1月12日(月・祝)～1月25日(日)

第6回郷土作家展「海の刻 古市義二・岸本章」 ... 3

[自然] 観察ガイド「湖山池(鳥取市) — 野鳥の観察 —」 4

資料紹介「鳥取県最後のヒョウモンモドキ — ^{さとうひろみ}佐藤博巳昆虫コレクション —」

[人文] 資料紹介「^{てあぶりがたどき}手焙形土器」 5

コラム「鳥取県の食文化レプリカ」

[美術] コラム「歌仙絵」 6

新収蔵品紹介 前田直衛《京の老舗(袖屋)》

[山陰海岸学習館だより] 赤ちゃんイカの水槽 7

[おしらせ] ホームページが見やすく、使いやすくなりました

講座・観察会・アートシアター 8



はじまりの物語

えんぎ いにしえ
—縁起絵巻に描かれた古のとっとり—

「縁起」という言葉を聞いて、何を連想されるでしょうか。「縁起がいい」「縁起物」といった言い方から、お目出度いことをイメージされる方が多いのではないのでしょうか。

本来、「縁起」は、「一切の事物は固定的な実体をもたず、さまざまな原因(因)や条件(縁)が寄り集まって成立しているということ」(出典:『広辞苑』)を意味する仏教用語で、これから「事物の起原、由来」、転じて「吉凶の前兆」の意味を持つようになりました。寺社縁起の「縁起」は、「事物の起源、由来」の意で、寺院や神社の「はじまり」とその後の歴史を語るものです。

寺社の縁起では、神仏の靈験や英雄・高僧の超人的な力が語られることが多く、史実とは考えられない荒唐無稽な内容も多く含まれています。しかし、それは全く価値のないものというわけではありません。靈験あらかたかな神仏が存在する世界や、英雄たちの活躍の舞台を身近に感じたいと願い、その物語を後世へ伝えてきた人々の想いが、そこには示されているのです。

また、縁起で語られる内容の全てが虚構というわけではありません。実際に起こった事件を語るものも多く、史実を一部反映していると考えられる縁起もあります。例えば、因幡堂(京都市)の創建を語る『因幡堂縁起』は、橘行平が因幡国加留津(現鳥取市賀露)の

海で引き上げた後、都へ飛来した薬師如来像の靈験を伝えています。この縁起の主人公の橘行平は、実際に因幡に来たことが確認できる人物で、因幡堂本尊の薬師如来像(国重要文化財)も行平が活動した十世紀初め頃に制作されたものです。こうした事実と縁起の内容から、この像は行平が因幡から奪い去ったもの、あるいは行平が賀露に漂着した流木から作ったなど、多くの説が唱えられています。

今回の企画展は、このように寺社縁起を古文書、仏像などの関連資料と合わせ見ること、その虚構性と史実との関係を考えながら、古代・中世のととりの歴史を探ろうとするものです。

展示は2部構成をとり、第1部は「靈験と創建—奈良・平安時代—」と題し、『因幡堂縁起』や『大山寺縁起』、『八幡之縁起』などに描かれる神仏の靈験譚を中心に、古代の因幡・伯耆を紹介します。特に、縁起の記載に従うと、千年ぶりに里帰りすることになる因幡堂と延算寺(岐阜市)の2体の薬師如来像は必見です。

第2部の「戦乱と再生—鎌倉～戦国時代—」では、源平合戦、南北朝動乱、戦国争乱の中での因



木造薬師如来像(延算寺蔵)

木造薬師如来像(因幡堂蔵)

幡・伯耆の寺社の興亡を紹介します。秀吉の攻撃から逃れたと伝えられる『絹本着色楊柳観音像』(国重要文化財・豊乗寺蔵)や、尼子氏、南条氏などの戦国大名の発給した文書も展示します。

その他、映像コーナーでは、『因幡堂縁起絵巻』『大山寺縁起絵巻』の全容を映像でご覧いただけます。体験コーナー「絵巻の見方・触り方」では、賀露から引き上げられる薬師如来が描かれる『因幡堂縁起絵巻』の複製を実際に扱うことができます。どうぞご来館ください。

(学芸課 石田 敏紀)



「因幡堂縁起」(因幡堂蔵)…因幡一宮の全景

- 会 期: 10月4日(土)～11月9日(日) 無休
- 会 場: 2階 第1・2・3特別展示室
- 料 金: 個人当日/800円
個人前売・20名様以上の団体/600円
小・中学生、高校生、学生/無料
- 講演会「絵巻のおもしろさ」
10月5日(日) 14:00～15:30 講堂<無料>
講 師 高畑 勲(アニメーション映画監督)
定 員 220名(要申込)
*申込みは終了しました。
- 講演会「漂着、飛来する仏像
—因幡堂・延算寺の縁起から—」
10月12日(日) 14:00～15:30 講堂<無料>
講 師 石田敏紀(当館学芸課)
- 民俗講座「鳥取県の民話を聞く会—お寺の縁起—」
10月19日(日) 14:00～15:30
企画展会場<要入場料>
- 語 り とっとり・民話を語る会
- 講演会「大山寺縁起の成立」
10月26日(日) 14:00～15:30 講堂<無料>
講 師 橋本章彦(京都精華大学 講師)
- 講演会「大山・三徳山の縁起」
11月3日(月・祝) 14:00～15:30 講堂<無料>
講 師 福代 宏(当館学芸課)
- ギャラリートーク
10月11日、18日、11月8日(土) 14:00～15:30
企画展会場<要入場料>

シュルレアリスムとその周辺

当館ではこの冬、「シュルレアリスム(超現実主義)」の美術を紹介する展覧会を開催します。「シュルレアリスム」とは、少し耳慣れない言葉かもしれませんが、「シュルレアリスムとは言わないの?」という問いかけが、どこからか聞こえてきそうです。

「シュルレアリスム」は、超現実主義を意味するフランス語「surrealism」の発音に忠実な呼称です。日本では、接頭語の「sur」を「シュール」と伸ばし、語尾の「ism」を英語風に「イズム」と読む人が多いのですが、実は、「シュルレアリスム」という言い方が正確です。

また、超現実主義という用語における「超」とは、若者言葉で「超可愛い!」と言う時の「超」のニュアンスに似ています。一般的な現実を突き抜けた地点に存在する、究極の現実を求めようとする考え方が、シュルレアリスムの思想です。

では、具体的にはどのような事柄が「超現実」なのでしょう。シュルレアリスムの実践者＝シュルレアリストたちは、人間の無意識や夢、狂気や本能の中にそれを求めました。シュルレアリスムは、潜在意識



ルネ・マグリット《観光案内人》1947年、油彩・カンヴァス、姫路市立美術館蔵 ©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2008

やタブー視された欲望を理性や道徳から解き放ち、生き方そのものを変革しようとする、大胆で危険な思想革命だったのです。

1920年代のパリで起こったこの動きは、新たな表現領域を拓く可能性を持つとして多くの美術家に受け入れられ、一大芸術運動へと発展していきました。

さて、今回の展覧会では、日本でも有名なダリやマグリット、エルンストなどの絵画作品を通して、シュルレアリスムの特性をわかりやすくご紹介する予定です。出品作品は版画が中心となりますが、その他にも水彩画、油彩画、コラージュなど幅広く展示します。これらを、オート

■会 期：11月22日(土)～12月23日(火・祝) 無休

■会 場：2階 第1・2特別展示室

■料 金：個人当日/600円
個人前売・20名以上の団体/400円
小・中学生、高校生、学生/無料

■講演会「シュルレアリスムの謎
ーダダから現代美術まで」

11月23日(日) 14:00～15:30 講堂<無料>

講 師：村松和明(岡崎市美術館学芸員)

■講演会「版の見る夢

ーシュルレアリスムと複製技術」

11月30日(日) 14:00～15:30 講堂<無料>

講 師：林 道郎(上智大学教授)

■ワークショップ「コラージュ版画でポストカードをつくろう!」

12月6日(土) 14:00～16:00

会 場：会議室<要入場料+材料費400円>

対 象：小学校高学年～一般

申し込み：11月22日から電話で受付(定員20名)

■映画上映会「眠るパリ」「幕間」「アンデルシアの犬」

12月20日(土) 14:00～15:30 講堂<無料>

■学芸員によるギャラリートーク

11月29日(土)、12月13日(土) 14:00～14:45

企画展会場<要入場料>

マティスム(自動記述)、オブセッション(強迫観念)などのキーワードごとに展示し、シュルレアリストたちの関心のありかや、表現に際しての方法論を提示したいと考えています。

また、展覧会には現代美術家のクリストやジョン・ケージの版画作品も出品し、シュルレアリスムが第二次世界大戦後の美術に与えた影響を検討します。今から90年近く前のパリに始まり、世界各地に広がったこの運動は、今もなお芸術表現の深層に生き続けているのです。シュルレアリスムの多面的な魅力をご紹介する本展に、ぜひご期待いただきたいと思ひます。

(美術振興課 竹氏 倫子)

共 同 企 画

第6回郷土作家展

「海の刻 古市義二・岸本章」

「郷土作家展」は、鳥取県ゆかりの作家にスポットライトをあて、その業績と作品を広く県民に紹介することを目的として開催し、県内3会場を巡回します。

第6回になる本年は、全国規模の公募展・二紀展および関西二紀

展に木彫出品し、受賞を重ねる鳥取県を代表する彫刻家・古市義二(1925年～、倉吉市在住)と、日展会友で「第4回菅橋彦大賞展」大賞等を受賞する鳥取県を代表する日本画家・岸本章(1951年～、鳥取市在住)の二人を紹介します。

■会場・会期

・鳥取県立博物館 無休

平成21年1月12日(月・祝)～25日(日)

・米子市美術館 水曜休館

平成21年1月31日(土)～2月15日(日)

・倉吉博物館 月曜休館

平成21年2月21日(土)～3月8日(日)

■料 金 一般400円(団体200円)

■アーティストトーク

(出品作家による展示解説)

・1月12日(月・祝) 10:30～ 鳥取県立博物館

・1月31日(土) 14:00～ 米子市美術館

・2月21日(土) 14:00～ 倉吉博物館

(美術振興課 門脇 博)

こ やま いけ
湖山池 (鳥取市)

—野鳥の観察—

湖山池は鳥取平野の北西部に位置する潟湖で、湖山川によって日本海に通じています。「池」と名がつく水域としては全国最大級の規模を誇り、周囲17.5km、面積6.88平方km、最大水深は7.0mにもなります。

湖山池での自然観察は、秋から冬にかけての野鳥観察がおすすめです。池やその周辺の林地には、冬を越すためにさまざまな種類の野鳥がやってきます。ここでは、池最大の島である青島あおしまでの観察を紹介します。

青島には、池の南側に位置する高住地区から橋（青島大橋）で渡ることができます。まずは、島の周囲をまわる遊歩道を歩いてみましょう。

岸に近い場所では、マガモやカルガモ、オオバンなどを見ることができます。のんびり休んだり餌を探したりする姿を、近距離で観察することができます。ただ、あまり近づきすぎると彼らを驚かせてしまうので注意しましょう。

少し沖合いに目を向けると、ちょんまげがユーモラスなキンクロハジロ、赤茶色の頭がおしゃれなホシハジロの群れが浮いています。また数は多くありませんが、白黒模様で「パンダガモ」のあだ名をもつミコアイサ、「おにぎり形」の頭がかわいいホオジロガモの姿も見ることができるかもしれません。

カモ類以外の水鳥では、カワウ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリといった種類が見られます。とくにカンムリカイツブリは多数の群れで見られ、長い首がニョキニョキと林立するさまはなかなか見ごたえがあります。

池の上空や岸辺の木の上にも注意して、ワシタカ類の姿を探してみましょう。トビやミサゴに加え、近年ではオオワシやオジロワシも飛来するようになりました。翼を広げると2メートルを超えるワシ達が魚やカモ類をハンティングする姿は、じつに迫力満点です。



高住地区から見た湖山池と青島

遊歩道は青島の内部にもあり、比較的自然性の高い広葉樹の林の中を歩くことができます。カラ類やメジロなどのほか、アトリやミヤマホオジロ、ウンといった山地性の小鳥類が出迎えてくれることでしょう。また県内では記録がわずかしかないトラフズクも、最近になって青島の林で確認されました。

鳥取市の中心部から青島まではアクセスもよく、島内の遊歩道も整備されています。子どもからお年寄りまで、気軽に自然観察が楽しめるスポットです。

(学芸課 一澤 圭)

[湖山池青島までのアクセス]

バスで：JR鳥取駅から日ノ丸バス吉岡温泉行きで約20分、「青島公園」下車すぐ。

自家用車で：国道29号から鳥取市徳尾の「国道道路」交差点で西に進み、約4kmで青島大橋につく（駐車場あり）。

資 料 紹 介

鳥取県最後のヒョウモンモドキ

さとうひろみ
—佐藤博巳昆虫コレクション—

2007年6月、当館に約4000点の昆虫標本が寄贈されました。2006年3月に急逝された佐藤博巳氏さとうひろみ（享年52歳／米子市）の昆虫標本コレクションです。佐藤氏は、中学のころから昆虫に興味をもち、採集・標本収集を続けられました。山登りも好きで、よく大山（鳥取県）に登られたとのこと。コレクションの中には大山産のものも多くあります。このように地元産の標本も多いのですが、全くといっていいほど、このコレクションのことは知られていませんでした。佐藤氏は独学で昆虫学を学び、昆虫愛好家との交際も少なく、ほとんど単独で活動されていたのです。ただ1979年ころの数年間だけ、鳥

取県有数の昆虫研究者である三島寿雄氏（境港市）を訪ねて指導を受けていたようです。

現在、このコレクションの目録発表に向け、整理を行っているところですが、貴重な記録となる標本が続々とみつかっています。写真のチョウは、1982年6月24日に鳥取県側の蒜山で採集されたヒョウモンモドキ（タテハチョウ科）です。本種は鳥取県ではすでに絶滅したチョウです。今まで1976年の三朝町福本での記録が最後とされていましたが、1982年まで生息していたことが新たに判明しました。ヒョウモンモドキは、環境省でも絶滅危惧Ⅰ類に指定されており、全国的に絶滅が危



ヒョウモンモドキ *Melitaea scotosia*
(1982年6月24日 鳥取県蒜山)

惧されています。生息地は湿地や浅い湿原であり、本種の絶滅はこのような自然環境の消失を意味します。

かけがえのない貴重な標本から「過去」を学び、そこから「未来」の私たちの活動を考えていくことは大切なことです。さまざまな環境問題が叫ばれる昨今、私たち人間は自然とどのように付き合っていけばいいのか、佐藤博巳昆虫コレクションはきっと多くのことを教えてくれることでしょう。

(学芸課 川上 靖)

て あぶり がた ど き
手焙形土器



この土器は、高さ17.8cm、最大径17.5cmで、一部欠けていますが、ほぼ完全な形です。上部の半分以上がドーム状に覆われ、残りの部分が口となる、変わった形をしています。「手焙形土器」と呼んでいますが、それは最近まで使われた持ち運び式の「手焙り」に形が似ているため名付けられたものです。弥生時代の終わり頃に作られたと考えられます。

見つかったのは、倉吉市大谷にある三度舞大將塚「墳丘墓」です。墳丘は裾を削られています、一辺約21mの方形で、高さ約2.5mの大きさがあります。大正時代に発掘された際、墳丘上に敷かれた川原石の上面からこの土器が見つかったようです。かつては「古墳」とされていましたが、現在では、弥生時代終わり頃の墳丘墓と考えられるようになりました。

さて、この手焙形土器、どのように使ったのでしょうか。この土器は発見時、中に灰が入っていたようです。また、内面にススがついている例があることから、中で火を使った可能性があります。実際に炭火などを入れて暖を取っていたのでしょうか。しかし、この手焙形土器は、一つ

の遺跡でたくさん見つかることは少なく、多くて数個しか見つかりません。さらに、近畿地方中心に分布し、県内では10例程度です。

こうしたことから、この手焙形土器は、暖を取るような日常用土器ではなく、「まつり」で使われた特別な用途の土器であると考えられます。三度舞大將塚墳丘墓の場合、墳丘上の川原石の上面で見つかったとされており、墳丘上で行われたまつりの時に使われたのでしょうか。

手焙形土器は、存在する時期と分布から、「邪馬台国」との関連も指摘されており、当時の社会を考える中で重要な資料です。

(学芸課 東方 仁史)

コ ラ ム

鳥取県の食文化

ーレプリカで再現ー

現在、鳥取県では、郷土食や食文化の豊かさを県民が実感し、愛着と誇りを持って語ることのできる風土づくりを進め、「食のみやこ鳥取県」として広く県内外に県産品の美味しさを発信しています。微力ながら、当館の歴史民俗展示室でも、鳥取県の食文化として、郷土料理を展示紹介しています。

さて、料理といえば「なまもの」。言うまでもなく、腐ったり、害虫が寄りつき、他の収蔵資料に被害を与えるため、展示施設である博物館に好ましくないものの代表です。このことから、今まで食については、写真で紹介することしかできませんでしたが、近年のレプリカ(複製資料)の製作技術の進化により、当館でも平成16年度からレプリカによる展示を行っています。

当館が、レプリカを製作するのに、こだわった点があります。第一に、実際に料理を作ったことです。調理は、県内各地でそれぞれの郷土料理を伝え継いできた生活改善グループにお願いしました。

第二に、料理の質感を忠実に複製したことです。展示した時に見えない底面まで、本物そっくりです。レプリカの材料である樹脂も、料理の素材によってウレタン・シリコンなどを使い分けて造形した後、写真をもとに彩色しました。

第三に、料理を盛る器も地産地消の観点から、できるだけ県内の加工品(陶磁器・木竹製品)から選んでいます。



「鳥取県の食文化」レプリカ

手前左手から、二十世紀梨、しろいか、大山おこわ、豆腐ちくわ・あごちくわ、中段左手から、いぎす、いがいめし、小豆雑煮、おいら、上段左手から、いただき、岩がき、松葉がに、柿の葉ずし

例えば、写真手前の「しろいか」は、初夏の特産品としてお馴染みのものですが、実際に県漁協女性部連絡協議会の方々に調理していただき、刺身、生姜、しその葉、さらには「いか」をまるごと復原しました。そして、しろいかが映えるよう、器には中井窯の皿を用いています。

保存方法、時季に限定されないレプリカだからこそ、一堂に紹介できることになりました。常設展示室の中で、四季を通じて、恵まれた鳥取県の食文化を見つめ直してみたいかがでしょうか。

(学芸課 福代 宏)

あまり馴染みのない美術用語かもしれませんが、「歌仙絵」とは、優れた歌人の姿とその歌を描いた絵のことを指します。私たちが古の歌人に接する機会は、歌仙絵の一種である百人一首カルタぐらいかもしれませんが、江戸時代までの日本人にとって、歌人たちはもう少し身近な存在であったようです。それは寺社などに奉納される扁額に歌仙の主題がしばしば選ばれ、人々の目に触れられていたことや、教養として和歌を嗜むことが尊ばれていたことも、その理由に挙げられます。三十六歌仙を当世の美人に見立てた浮世絵も多く見受けられますが、これは庶民の間に、歌仙とその歌に対する知識が下地としてあったことを裏付けているでしょう。

さて、歌仙絵の中心となる三十六歌仙絵の始まりは、平安時代後期にまで遡り、藤原公任ふじわら きんとうが選んだとされる「三十六歌仙」を描いたものにその源流がもとめられます。三十六人の歌仙は、柿本人麻呂や山部赤人、紀貫之や小野小町など著名な歌人たちです。その後、これに影響を受けて、鎌倉時代の歌人を中心にして選んだ「新三十六歌仙」や、女流歌人だけを選んだ「女房三十六歌仙」なども誕生します。平安時代には歌合という歌の優劣を競う遊びが誕生し、歌道が盛んとなって様々な歌論書が執筆されました。王朝の人たちにとって和歌道は、単なる趣味ではなく、その人格や名声に結びつく重要な意味をもっていたのです。こうした思



狩野探幽筆「紀貫之図(左)」「斎宮女御図(右)」
(栲翁神社蔵「三十六歌仙図扁額」三十六面のうち)

潮は、時代が進むとともに次第に変化しますが、歌仙絵が江戸時代を通じて描かれ続けた背景には、人々の歌人に対する尊崇の思いが変わらずにあったことを私たちに教えてくれます。

当館では11月20日(木)より12月23日(火・祝)まで、2階美術展示室で「歌仙絵」を開催し、さまざまな歌人の姿を描いた作品を展示いたします。この機会に、歌仙絵の世界に触れていただければと思います。

(美術振興課 山下 真由美)

新 収 蔵 品 紹 介

静かに佇む老舗の軒先 前田直衛《京の老舗(柚屋)》

1992年、紙本着色、165.5×222.5cm、第77回院展出品

夕刻間近の柔らかな光を浴びて、ひっそりと佇む軒先。暖簾の家紋や看板から、宝永5年創業の柚味噌を専門に扱っている老舗「八百三」であることが推測できます。

この作品の作者は、八頭郡大村(現鳥取市用瀬町)出身の日本画家・前田直衛(大正5年~)です。

前田直衛は、鳥取県出身の日本画家・菅楯彦の内弟子となり描画の基礎を学んだ後、楯彦の紹介状を携え橋本関雪に師事しますが、戦争の激化に伴い終戦まで三度召集されます。復員後はしばらく絵筆を置きますが、昭和35年の院展入選を境に本格的に制作を再

開し、院展を主な作品発表の場として制作に励み、昭和38年院友推挙、昭和61年には特待に推挙されています。

前田直衛は初期、身近な風景を題材に、明快で鮮やかな色面構成やコラージュなどの技法を採り入れた新しい日本画を模索しますが、昭和45年頃から長い歴史をもつ京都の古民家や老舗などを取材した作品群の制作を続けています。

前田直衛の作品のほとんどは本作のように、人物は描かれず、表口は少し開けられ、静かに佇む老舗の軒先が忠実に描かれています。雄弁に多くを語り掛ける作品ではありませんが、観る者を建物内に誘い込み、次第に静かに語



前田直衛《京の老舗(柚屋)》

り掛けてくる味わい深い魅力があります。単に伝統的な建築物の美しさを忠実に描くのにと留まらず、過ぎ去った時間とそこに刻みこまれた多くの人々の営みや出来事をも表そうとしています。

なお、この作品を含め7点の院展出品作品と17点の下絵資料を、昨年度作者より寄贈いただきました。

(美術振興課 門脇 博)

美術常設展

2F 美術展示室 さまざまなテーマによる企画展示を行います。

■歌仙絵

11月20日(木)~12月23日(火・祝)

狩野探幽筆「三十六歌仙図扁額」(栲翁神社蔵)や、柿本人麻呂などの歌仙を描いた作品を中心に、展示紹介します。

■抽象美術の世界

2月6日(金)~3月22日(日)

20世紀美術の特質の一つである抽象表現を様々なジャンルを横断して紹介します。

1F 美術常設展示室

鳥取県ゆかりの江戸時代から現代までの美術作品を展示しています。

鳥取の美術3	10月16日(木)~12月25日(木)
鳥取の美術4	2月4日(水)~4月12日(日)

なお、11月10日、3月9日は展示替えのため休室します。

赤ちゃんイカの水槽

夏休みが始まる7月23日に、学習館の水槽展示がリニューアルオープンしました。生きもの本来の行動や能力を見せる「生態展示」をテーマに、水族館でも飼育が難しい“イカ”や身近な海の生きものを飼育展示しています。水槽のリニューアルオープン後は多くの方々にご来館いただき、イカが泳いでいる姿やエサを食べる行動などをじっくりと観察していただいています。

その中でも今一番オススメの水槽は、学習相談室（展示水槽が並んだエントランスの裏側）にひっそりと設置されている備蓄用の水槽です。この水槽では7月上旬に卵からふ化したコウイカの赤ちゃんが毎日多くのエサを食べてすくすくと成長しています。普段は砂の上でじっとしている稚イカたちですが、エサのエビや魚を与えると我先にと素早く動き、“触腕”と呼ばれる2本の長い腕を伸ばして一瞬のうちにエサを捕らえます。稚イカの捕食行動は小さいながらも迫力満点で、自分の体と同じくらい大きさのエサでも捕らえて食べてしまいます。コウイカの稚イカたちは夏から秋にかけて急速に成長しますので、その姿をぜひご覧ください。そして、成長した稚イカたちは冬になると成熟し、交接（交尾）や産卵行動を始めます。

かわいいイカの赤ちゃんが見られるのは今だけです。ぜひお見逃しなく！



(山陰海岸学習館 和田 年史)

■普及活動一覧（10月～3月）

《野外観察会》「日本海のみみつをさぐる ～浜辺の漂着物拾い～」

10月26日(日) 9時～12時

対象：一般（小学生以下は保護者同伴）

募集人数：15名（参加無料）／ 申込期間：10月12日～

《講演会》招待講演『ダイオウイカのみみつに迫る（仮称）』

11月15日(土) 14時～16時

講師：窪寺 恒己氏（国立科学博物館）

対象：小中学生・一般（小学生以下は保護者同伴）

申込不要、定員なし（参加無料）

《自然講座》「海藻おしばでオリジナルカードをつくる」

12月21日(日)と2月8日(日) 13時～15時

対象：一般（小学生以下は保護者同伴）

募集人数：各15名（参加無料）／ 申込期間：12月7日～

《自然講座》「漂着物アートを楽しむ」

1月25日(日) 13時～15時

対象：一般（小学生以下は保護者同伴）

募集人数：15名（参加無料）／ 申込期間：1月11日～

《野外観察会》「一足先に海岸の春を探す（動植物・地形地質編）」

3月28日(土) 9時～15時

対象：一般（小学生以下は保護者同伴）

募集人数：15名（参加無料）／ 申込期間：3月14日～

鳥取県立博物館附属『山陰海岸学習館』

■開館時間：9時～17時（7月・8月の毎週土曜日は18時まで開館）（入館無料）

■休館日：原則として月曜日（祝日の場合は翌平日）（7/20～8/31の間は毎日開館）

【お問い合わせ】〒681-0001 鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話・FAX：0857-73-1445 E-mail: saninkaigan@pref.tottori.jp

おしらせ

ホームページが見やすく、使いやすくなりました

この度ホームページを一新し、見やすさと使いやすさを向上させました。また、内容も学校教育や社会教育の中で博物館をより活用していただくための「学校のための博物館利用ガイド」や「地域のための博物館利用ガイド」、「スタッフ紹介」などを新設しました。

中でも、「教科書に出てくる博物館資料」は小学校（国・理・社）、中学校（理・社）の教科書に出てくる事項に対応する常設展示資料を紹介する全国的にも例のないコンテンツです。

また、海の分館である山陰海岸学習館のページも本館同様にデザインを一新しました。次のURL、または「鳥取県立博物館」で検索して、新しいホームページをご覧ください。

鳥取県立博物館HP

<http://www.pref.tottori.jp/museum/>



INFORMATION イベントガイド

講座・観覧会・アートシアター

LECTURE・FIELD STUDY・ART THEATER

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門

2008 10 OCT	《天体観望会》 秋の星を見る会	■10月4日(土) 19時~21時 前庭 ■小学生以上
	《アートシアター》 「ジャン・ヌーベル」	■10月4日(土) 15時~16時 講堂 ■高校生以上 定員250名
	《野外観察会》 土の中の生きものをさがそう! in水ノ山	■10月5日(日) 13時~16時 水ノ山自然ふれあい館「響の森」 ■要申込 小学生以上 定員20名(先着順) ※申込先:「響の森」(0858-82-1620)
	《講演会》 絵巻の魅力	■10月5日(日) 14時~15時30分 講堂 ■要申込 一般 定員220名(抽選)
	《アートセミナー》 鳥取藩絵師の動物画	■10月11日(土) 14時~15時30分 会議室 ■高校生以上 定員40名
	《講演会》 漂着、飛来する仏像 -因幡堂・延算寺の縁起から-	■10月12日(日) 14時~15時30分 講堂 ■一般 定員250名
	《アートシアター》 「革命の夜、いつもの朝」	■10月18日(土) 15時~17時 講堂 ■一般 定員250名
	《野外観察会》 キノコを調べる会	■10月19日(日) 10時~14時 とっとり出会いの森(鳥取市桂見) ■要申込 一般 定員40名(先着順)
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会 -お寺の縁起-	■10月19日(日) 14時~15時30分 企画展示会場 ■一般
	《ワークショップ》 パブリックアート発見! ウォークラリー	■10月25日(土) 10時~15時 会議室 ■要申込 小学生以上 定員50名(先着順)
2008 11 NOV	《講演会》 大山寺縁起の成立	■10月26日(日) 14時~15時30分 講堂 ■一般 定員250名
	《アートセミナー》 オブジェとアッサンブラージュ	■11月1日(土) 14時~15時30分 会議室 ■高校生以上 定員40名
	《自然講座》 秋の贈り物でリースをつくろう! -ドングリの学習-	■11月2日(日) 9時~12時 博物館周辺 ■要申込 幼稚園・小学生向け 定員30名(先着順)
	《講演会》 大山・三徳山の縁起	■11月3日(月・祝) 14時~15時30分 講堂 ■一般 定員250名
	《アートシアター》 「ファンタスティック・プラネット」	■11月8日(土) 15時~16時 講堂 ■中学生以上 定員250名
	《ギャラリートーク》 鳥取の美術3	■11月15日(土) 14時~ 美術常設展示室 ■中学生以上
	《歴史講座》 とっとり城下町ウォーク(2)	■11月22日(土) 9時~12時 玄間前集合 ■要申込 一般 定員20名
	《ギャラリートーク》 歌仙絵	■11月22日(土) 14時~ 近代美術展示室 ■中学生以上
	《講演会》 幕末の鳥取藩	■11月29日(土) 14時~15時30分 講堂 ■一般 定員250名
	《ギャラリートーク》 シュルレアリスムとその周辺	■11月29日(土) 14時~ 企画展示会場 ■中学生以上

2008 12 DEC	《ワークショップ》 コラージュ版画でポストカードをつくろう!	■12月6日(土) 14時~16時 会議室・企画展示会場 ■要申込 小学校高学年以上 定員20名(先着順)
	《ギャラリートーク》 シュルレアリスムとその周辺	■12月13日(土) 14時~ 企画展示会場 ■中学生以上
	《アートシアター》 「眠るナリ」幕間「アンダルシアの犬」	■12月20日(土) 14時~15時30分 講堂 ■高校生以上 定員250名
	《アートシアター》 「マルセル・デュシャン事件」 「雨のあとのヨーロッパでは」	■12月27日(土) 13時~16時 講堂 ■高校生以上 定員250名
	《アートシアター》 「ベジャール特集」	■1月10日(土) 15時~16時 講堂 ■高校生以上 定員250名
	《アートセミナー》 興禅寺 天井画について	■1月17日(土) 14時~15時30分 会議室 ■高校生以上 定員40名
	《講演会》 鳥取の埴輪	■1月18日(日) 14時~15時30分 講堂 ■一般 定員250名
	《アートシアター》 「バルテュス」	■1月24日(土) 14時~15時 講堂 ■一般
	《ワークショップ》 私だけのアートカルタを作っちゃおう!	■1月31日(土) 14時~16時 会議室 ■要申込 小学生以上 定員20名(先着順)
	2009 1 JAN	《アートシアター》 「ピエール&ジルの家で」
《歴史講座》 古文書を読む会(1)		■2月8日(日) 14時~16時 会議室 ■要申込 一般 定員20名(先着順)
《ギャラリートーク》 鳥取の美術4		■2月14日(土) 14時~ 美術常設展示室 ■中学生以上
《アートシアター》 「クリスチャン・ボルタンスキーの記録」		■2月21日(土) 14時~15時 講堂 ■一般 定員250名
《歴史講座》 古文書を読む会(2)		■2月22日(日) 14時~16時 会議室 ■要申込 一般 定員20名(先着順)
《アートセミナー》 鳥取県の染織家たちⅢ 鳥取県西部編		■2月28日(土) 14時~15時30分 会議室 ■高校生以上 定員40名
《ギャラリートーク》 抽象美術の世界		■3月7日(土) 14時~ 近代美術展示室 ■中学生以上
《歴史講座》 古文書を読む会(3)		■3月8日(日) 14時~16時 会議室 ■要申込 一般 定員20名(先着順)
《アートシアター》 「ルイズ・ブルジョワ・ワーク・イン・プログレス」		■3月14日(土) 14時~16時 講堂 ■一般 定員250名
2009 2 FEB		《ギャラリートーク》 鳥取の美術4
	《歴史講座》 古文書を読む会(4)	■3月22日(日) 14時~16時 会議室 ■要申込 一般 定員20名(先着順)
	《ワークショップ》 体の立体コピーでちょっとシュールな写真を撮ろう!	■3月28日(土) 14時~17時 ■要申込 小学生以上 定員20名(先着順)

※特に記載のないものは、申込不要、無料です。※申込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。※小学生以下は保護者同伴。※展示会場内の講座は入場料が必要です。

鳥取県立博物館ニュース

MUSEUM PRESS No.6

平成20年(2008年)9月29日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース
「仁風閣・県立博物館」下車すぐ
砂丘・湖山・賢露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m



株式会社 吉備総合電設
きびそうごうでんせつ

電気・防災・保守